

せいなん小は、イイがっこうだー！

卒業式、泣けました。別れの言葉の卒業生の表情、声、あふれる涙を手の甲で拭う仕草を見て涙腺が崩壊です。

じわじわと出てくる涙に目を見開いて耐え、涙の蒸発を待ちます。もう…、卒業生の姿を見ることは出来ません。あふれてしまうのです。せっかく持ってきていたハンカチを校長室に忘れてきた自分を恨みました。時折天井を仰ぎ見つ、子どもたちの言葉や歌声に耳を傾けていました。送る側、送られる側のそれぞれの思いのこもった卒業式だったと思います。こんな人の思いに応える子どもたちと、これまで日々関わってこられたことに感謝します。

「いつも明るく、元気を忘れないで、人をよろこばせて、セイナンパワー！」

六年の修了式に「ねんねんず」の漫才の中で卒業生に伝えたメッセージです。式辞の中でも伝えました。卒業生一人一人が、次のステージでまた輝くことを確信しています。

そして、二十四日（月）は在校生の修了式、そして退任式でした。修了式では、各学年代表に修了証を授与しました。代表の子どもたちはとても緊張していましたが、誇らしげな表情でした。そして、それぞれの学年の子どもたちも嬉しそうでした。やっぱり進級ってうれしいですね。

次に、一・三・五年の各学級代表が一年間の振り返りを立派に発表しました。それぞれが非常に立派な発表でした。担任の指導もあつたでしょうが、おそらくご家庭でもかなりご指導いただいたのではと思います。卒業生を除く約七〇〇人の面前で発表するなど、もしかすると一生にあるかないかの貴重な機会に、しっかり準備できたからこそ立派な発表です。この成功体験はものすごく大きいと思います。保護者の皆様、担任の先生方、ご指導ありがとうございました。



さて、在校生の修了式も「校長の話」は「ねんねんず」の漫才です。ネタのテーマは、西南小の誇りです。子どもたちに母校を誇りに感じてほしかったのです。

三年生以外は「ねんねんず」を初めて見ますので、「おじねん」と「をじねん」が登場したときは、出オチ感満載で大いに沸きました。気をよくした我々は、嬉々としてネタを始めました。「こんな学校は嫌だ。どんな学校？」の話題に「おじねん」がボケ、「をじねん」が「それは西南小のことだね」とやりわり突っ込む設定の繰り返しです。その下りの中で西南小の子どもたち持ち前の素直さや心優しさ、がんばり等を説明し、「西南小はいい学校だー！」とまとめていきました。最後は全員で「西南小はいい学校だー！」と唱和しました。子どもたちが喜んでくれて本当に良かったです。「おじねん」こと本校保護者の大久保穂さんと、校長室のブラインドを閉め切って何回も何回も練習した甲斐がありました。極秘の練習でしたが、だんだんと声が大きくなって廊下や職員室までももてていたようです。今回の定期異動で、本校職員二十四名が転退職いたしました。これまでご支援いただき誠にありがとうございました。そして、私自身も転出者の一人です。この二年間本当に幸せでした。素直で優しい子どもたちに出会い、子育てに一生懸命で協力的な保護者の皆様に出会い、熱心に学校に関わってくださる温かい地域の方々に出会い、熱くどんなときも明るい職員に出会いました。そんな出会いが貴重です。異動の予感はずいぶんあり、三月の目標は「終わりを越えればすべてよし！なわけない！」としていました。終わりは始まりなのです。四月には二十二名の新しい職員が参ります。西南小の新しいスタートです。次のスタートに向けて良いイメージをもちたいですね。

最後になりましたが、この二年間、私の拙文（駄文ともいう）を読んでくださり感謝します。西南小の今後の益々の発展を切に願っております。最後に二言。

「西南小は、イイ学校だー！」
「ねんねんずは、解散：しません！」

